

今後の存続をかけたB大学経営学部生き残り戦略

B4R11050 鴨志田和

<目的>

近年、私立大学はこぞってキャンパスを郊外から都心部に移転させている。2006年に共立女子大学が八王子市から千代田区にキャンパスを移転したことを皮切りに、2014年には実践女子大学が日野市にあった2学部や短大を渋谷区に移転、2015年も拓殖大学が八王子キャンパスの2学部を文京キャンパスに移転した。B大学経営学部も例に漏れず、2020年前後に東京都足立区に新キャンパスを開設し、現在の湘南キャンパスから移転する予定だ。

この大学の都心回帰の理由のひとつに少子高齢化が挙げられる。受験者数が減り、今やどの私立大学も学生の確保に必死である。そこで、人を集めやすい都心にキャンパスを移転し、経営を安定させる必要がある。しかし、キャンパスを移転させるだけでは他の私立大学との競争には勝てないだろう。むしろ土地の購入やキャンパス開設などの膨大な費用が出る一方である。B大学経営学部はこのようなハイリスクを抱えても、それ以上の利益を得ることが出来るのだろうか。本論文では現状分析、環境分析、競合分析を行うとともに近年の受験生の傾向を加味しながらB大学経営学部の生き残りをかけた戦略を分析する。

<研究・考察>

現在、私立大学は600校あり、私立に通う学生数はすべての学生の77%を占める。さらに600校の私立大学のうち約20%が東京都にキャンパスがある。この大学密集地とも言える都心にB大学経営学部がキャンパスを移転した場合に競合になると予想される大学数は13、学部数は23である。この場合の大学数はB大学経営学部の偏差値から予想される併願受験校であり、学部数は経済・経営・商業系の学部のみである。

近年の受験生は、就職に直結または資格の取れる学部・学科、また就職に強い大学に受験生の人気が集まる傾向がある。これは経営学部として、受験生を集める強みと言える。また、受験生が志望校選びのポイントにしているものとして大学の知名度、キャンパス所在地、入試科目・難易度、授業のカリキュラム内容が大学受験パスナビのアンケート結果から挙げられる。B大学は大学名にはある程度の知名度はあるが、経営学部の知名度は低い。キャンパス所在地も現在の湘南キャンパスでは十分とは言えない。しかし、この2つはキャンパス移転により改善を見込むことが出来る。また、入試科目や難易度に関してはAO入試や指定校推薦入試等の制度をより幅広く活用することで、他大学よりも受験生が選択してくれる余地が生まれる。

私は私立大学がひしめく都心で生き残るために一番必要なことは、競合大学との差別化だと考える。その差別化のひとつとしてカリキュラムのなかに、近隣の知名度が高い大学とのタイアップを取り入れることを提案する。都心ではまだまだ新参者のB大学は競合大学に協力を依頼し、知名度を上げることが必須である。

今後はさらに受験生が減少し、私立大学の格差は広がる一方である。その中でB大学経営学部はキャンパス移転を機にさらに飛躍していく可能性は十分あると言える。